

地域医療連携センター

センター長 塚田 暁

はじめに

当院が高度急性期の医療体制を維持していくためには、地域の先生方との個別具体的な連携＝アライアンス連携を拡大し、患者さんが必要な時に・必要な場所で・必要な医療を受けられる「地域完結型医療」を構築していくことが何より重要だと感じています。

人口減少社会における当院の役割を改めて考えつつ、地域の皆様とともに高知県の医療をより良くするために邁進していく所存ですので、引き続き当センターへのご支援・ご指導をよろしくお願い致します。

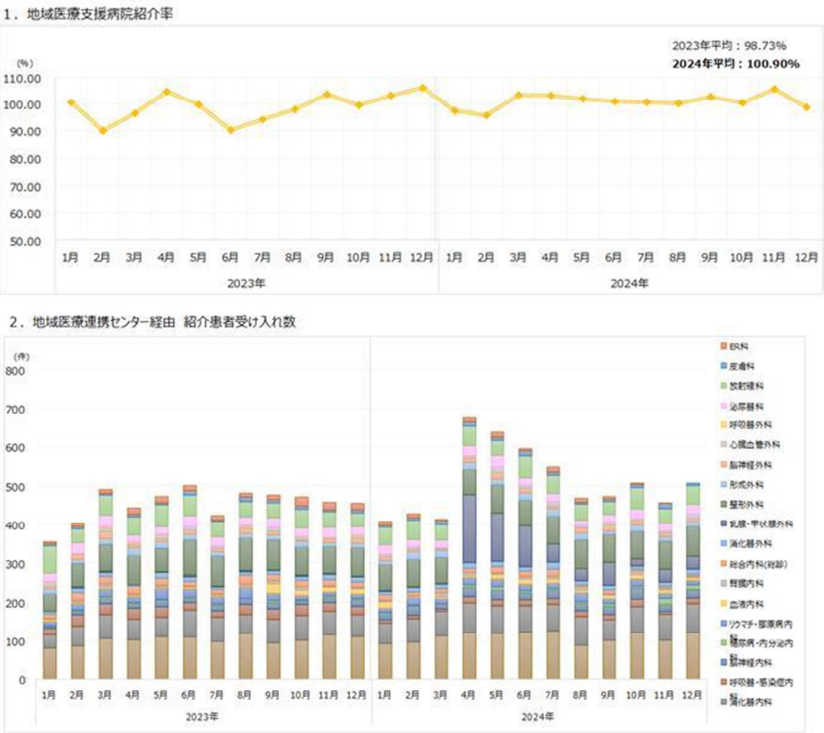
前方連携【患者さんの受け入れについて】

地域医療支援病院の紹介率は年間平均 100.90%で推移しており（昨年は 98.83%）、平日時間内の初診患者さんに占める紹介患者さんの割合は前年に比べ上昇しました。

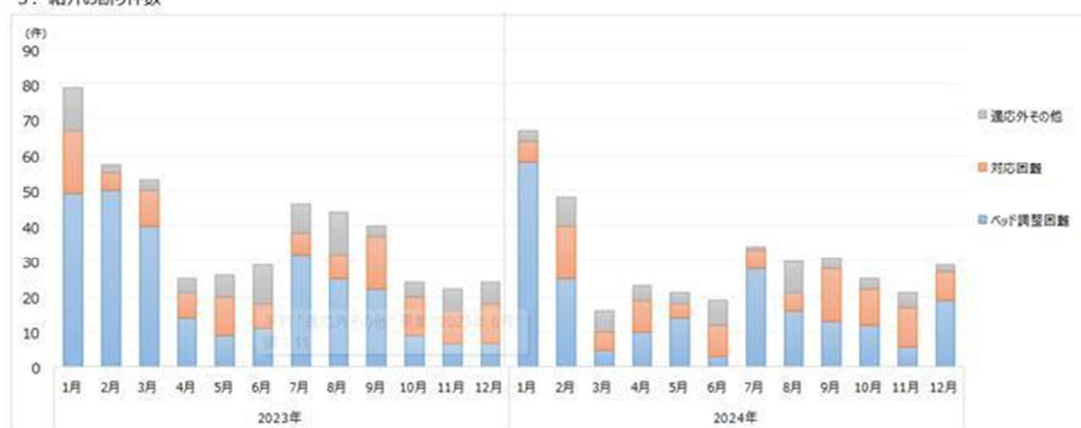
病院全体の紹介総数は前年比 809 件の増加となりました。そのうち当センターを介しての紹介患者さんの受け入れ件数は年間合計 6,117 件と前年比で 693 件のプラスとなりました。4 月に乳腺外科の杉本医師が着任し、多くの紹介を受けることになりました。乳腺外科の紹介を除いても 235 件の増加となりました。

循環器内科は 85 件増となり、不整脈や狭心症に関するご紹介が昨年に続き、増加傾向にあります。消化器内科は 121 件増となりました。当センターとしては丁寧かつ迅速な予約調整を行い、信頼を高めていけるよう引き続き努力したいと思います。

次に、やむをえず紹介をお断りした件数は前年比で 105 件の減少となりました。内訳としてはベッド確保困難が 57.4%、対応困難が 28.0%、適応外その他が約 14.6%でした。年始は COVID-19 によるクラスターが発生し、診療制限がありました。夏場にも感染者が増加し、お断りも増加しましたが、1 年を通して、COVID-19 以前と同じ受け入れを実施することができました。



3. 紹介お断り件数

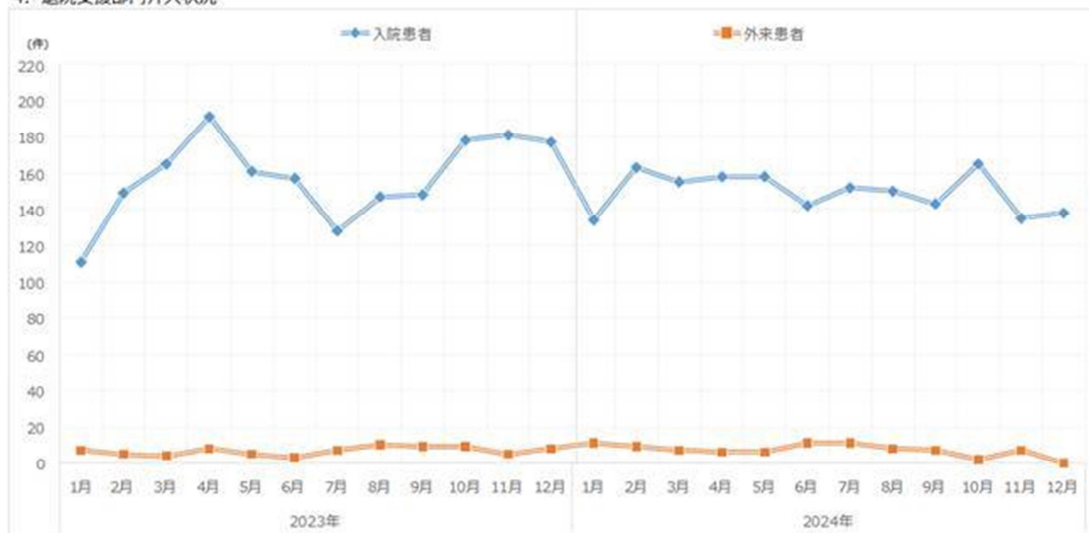


後方連携【患者さんの退院・転院支援について】

2023 年コロナウイルス感染発生時の対応は変化し、医療機関の受入が完全に停止されることは稀となり退院支援への影響は前年に比べて限局的となりました。連携先への訪問や来訪の機会が増え、電話や画面越しとは異なるコミュニケーションがとれることを改めて実感しています。また、面会制限が緩和されたことにより家族との直接面接機会が増え、現状の共有や意向確認において支援の充実につながったと考えています。

10 月下旬より、ER 担当者を固定して緊急入院患者への初期支援と ER からの入院相談の充実を試みました。取り組みを振り返り、今後の体制強化へとつなげていく予定です。

4. 退院支援部門介入状況



人事面について

2024 年 12 月末現在で医師 1 名・看護師 4 名・SW14 名・事務 7 名(非常勤含む)の総勢 26 名の体制となっています。